

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200650
法人名	社会福祉法人 杉の子会
事業所名	グループホーム廣寿苑
所在地	愛媛県今治市南大門町3丁目5-33
自己評価作成日	平成24年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 8 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中から利用者さんの真のニーズを理解し、希望の実現化への実践に向かって全職員の気付きを介護記録に残し、ケアプランへ導入・実践できるよう努力しています。又、食べることの喜び、気持ちのよい排泄ケアを大切に、常に新しい知識や介護技術の習得を心掛け、利用者さんが安全で安心できるケアを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「笑い声が聞こえ美味しい食事の匂いがする。毎日笑顔で生活できる。」という事を活動方針に掲げ、日々支援に努めている。利用者一人ひとりに向き合う心がけて、ちょっとした仕草や態度、ことばを見逃さないように、個別ケアに積極的に取り組んでいる。3か月に1回、開催される家族会では一緒に調理をし、食事を共にして信頼関係を構築し、自由に意見交換できるよう支援している。同じ敷地内に有料老人ホーム、ケアハウス、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所を併設し、協力体制に安心感が持てる。利用者は、家庭的な雰囲気の中で安心して穏やかに暮らすよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 社会福祉法人杉の子会グループホーム廣寿苑

(ユニット名) さくら

記入者(管理者)

氏名 妹尾 美地子

評価完了日 平成 24年 7月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 全職員で考えた「誰もが気軽に立ち寄り喜怒哀楽を共にし、当たり前の暮らしが送れるよう支援してまいります」という理念と「笑い声が聞こえ美味しい食事の匂いがする」活動方針を基に、常に利用者の必要とされているサービス提供が、満足に繋がるよう日々話し合い実践している。</p> <p>(外部評価) 職員全員で話し合い、新たに基本理念を作成した。理念を基にユニット毎に活動方針を作成し、月1回の職員会で確認している。フロアにも掲示して日々ケアの実践に活かしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 交流活動の場となる地域の行事や、小学校の交流会に出掛け顔馴染みとなり、近隣者との挨拶会話も自然と増えている。又、自施設の夏祭りでは、婦人会や推進会議メンバー、近隣の方々の参加により交流も深まり、認知症事業所への理解も広がってきている。</p> <p>(外部評価) 町内会長や民生委員、老人会、婦人会等から情報をもらい地域の行事に参加している。月1回小学校の行事「たんぼぼタイム」に参加し、お正月には近所にお餅を配る他、事業所の行事案内やポスターを公民館に掲示したり、買い物や散歩等で気軽に声をかけ合う等、地域との交流を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 認知症になっても、地域の中で当たり前に暮らすことの大切さ、周囲の人の理解や接し方の勉強会を行っている。又、短大実習生や高校生の職場体験等も定期的に受け入れ、地域における認知症ケアの推進を図っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回苑便りを作成し、家族・利用者・民生委員・公民館長・行政（市高齢介護課）など参加の下、活動内容の報告を行う。その中で課題へのアドバイス、率直な意見を頂いたり、専門的な意見交換を行いながら管理者・主任を中心にサービス向上改善に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、第2水曜日に開催している。利用者や家族、公民館長、地域住民代表、民生委員、市職員の参加を得て状況報告や活動報告を行い、議題について積極的に意見交換を行っている。出された意見はサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 推進メンバーである行政担当者には協力を得、議題を提案してもらったり、考え方や実態をよく知って頂き共有している。又、高齢介護課に自ら出向いたり、担当者には具体的なニーズを伝え、認定更新の機会などで連携を深めている。</p> <p>(外部評価) 高齢福祉課と地域包括支援センターの職員に交替で、毎回、運営推進会議に参加してもらい、事業所の状況を理解してもらっている。管理者は積極的に出向いて相談しアドバイスをもらう等、良好な関係を構築している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 法人内の身体拘束廃止委員会にて定期的に勉強会を実施し、全職員が拘束のないケアを目指し取り組んでいる。施錠については、防犯上18:30～7:30は行うが、他は開放し自由な暮らしが送れるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 月1回の職員会で、身体拘束をしないケアについて話し合うなど、理解を深め共有認識に取り組んでいる。玄関の施錠はせずセンサーを設置し、目配りと見守りをしながら自由な暮らしを支援している。帰宅願望のある利用者は30分毎に確認し、さり気なく声をかけて一緒に付いて行くなど見落とさないよう見守っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内で虐待防止委員会を設け、勉強会を実施し、職員会や勉強会、申し送りなどで高齢虐待防止法に関する理解浸透や、遵守に向けた取り組みを行い、事業所内での防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護、成年後見制度に関する研修会に参加し、都度勉強会を実施している。現在も利用者があり、随時関係機関と協力体制をとりながら、安心して活用できるように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約時には書類の説明、事業所の考え方、取り組み、退居を含めた対応の可能な範囲についての説明を行っている。又、利用者の状態変化により契約解除に至る場合は、家族等と対応方針の相談と理解、納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来訪時やカンファレンス、3ヶ月に1度の家族会、食事会などで利用者の生活状況の報告を行い、家族からの意見要望をお伺いしている。又、玄関に投票箱を設置したり、毎月の介護経過評価表に家族の意見要望記入欄を設け、運営業務や日々のケアに活かしている。 (外部評価) 家族会や運営推進会議、面会時、受診時等で直接話を聞く機会を多く持つように努めている。3か月に1回の家族会では利用者と家族、職員と一緒に調理し食事を共にして、何でも話しやすい関係を築いている。毎月の介護経過評価表に家族の記入欄を設け、意見や要望を聞いて、出された意見等は運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 合同ミーティング・勉強会・複数での研修参加など、日頃よりコミュニケーションを図るよう心掛け、信頼関係の構築に努めている。又、運営者には現場での報告を密に行い、職員の意見を反映させながら質の向上に取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員間のコミュニケーションや管理者との信頼関係を構築するため、食事会や飲み会などを催して、積極的に意見を出せる環境づくりに取り組んでいる。申し送り時やミーティングで職員から出された意見や提案は、管理者とユニット主任が集約し、法人内の各委員会に提案している。能率給を取り入れて向上心を持って働けるようにするなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務シフトに希望休を取り入れ、皆で協力し合い、楽しく就労できるよう工夫している。又、各職員の努力や成果について把握し、向上心を持ち働けるよう職能評価を行い、資格取得に向けての支援も行い、その成果も表れている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各自の立場、経験や習熟度の段階に応じた研修の機会を計画的に確保し、職員の質の向上に向けた育成に取り組んでいる。又、研修案内は事務所やホーム内に掲示し、参加を促している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会実施の研修会には毎回1名以上が参加。又、相互研修にも毎年参加し、経験や他事業所との意見交換をケアに活かしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談にて生活状態の把握ができるよう、ご本人の不安や求められていることなど把握し受け止め、安心して頂けるような関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの生活状態や、サービスを利用するに至った経緯についてゆっくりと傾聴し、今後事業所としてどのような対応ができるか事前に話し合いをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人やご家族様の思いや状況等を都度再確認し、今、必要であるサービスの情報を迅速かつ的確に提供できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活を共に過ごす中で、利用者の喜怒哀楽に関心を寄せながら、お互い支え、支えられていることを理解し、協力しながら穏やかで安心した生活ができるような場面作りや声かけを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 誕生会・そうめん流し・夏祭り・もちつき・家族会食事会などの行事の際には、家族への参加を呼びかけ、利用者・家族・職員が三位一体となり、楽しみながら交流を深め合い、より良い関係作りができています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) これまでの生活の中で、本人が支えられたり、支えてきた大切な人間関係を把握するよう努め、電話連絡や訪問で、馴染みの人や場所との関係継続ができるよう働きかけている。 (外部評価) 入居前に、利用者や家族から日々の生活の中で気付いたことなどを聞き取り記録して、一人ひとりの馴染みの関係を把握している。知人や行きつけの店、美容室等、これまで大切にしてきた関係が途切れないように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中、心身状態や気分、感情の変化が見られる為注意深く見守りながら、レクリエーション・軽作業などを行う中で、利用者同士の関係がうまくいくよう職員が仲介役となりながら支援している。	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も入院された利用者の面会を行ったり、ご家族の相談を受け、必要に応じた施設紹介等も行い、継続的な関わりができるよう心掛けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の利用者の言動、表情などからその心情を察し、真意を確認したり、意思疎通が困難であればご家族様から情報を得ている。毎月ケアプラン経過報告のコメントを頂き、3ヶ月に1回実施のカンファレンスでは家族参加を促し希望実現となるよう努めている。 (外部評価) 日頃から、利用者にできるだけ多くの声かけを行い、思いや意向を把握するよう努めている。意思疎通が困難な利用者については、日々のかかわりの中で信頼関係を築いて、表情や動作などから察知したり、家族からの情報などにより真意を確認している。それらを基に利用者本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 馴染みがあり使い慣れた私物を居室に置き、親しみのある環境作りに努めている。又、センター方式B3シート（私の暮らし方シート）を活用し、家族の協力を得ながら生活歴・馴染みの暮らし等を把握し、それらが継続できるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々の体調変化の早期発見の為、毎日のバイタルチェックを実施し、食事・排泄・睡眠などを個別チェック表に記載し活用している。又、個々の生活リズムを大切にしながら、できることわかる力を暮らしの中で発見できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人、家族、担当職員など参加の下カンファレンスを実施。要望や変化に応じ見直しを行っている。ケア内容は介護記録記入時いつも確認できるようファイルし、経過評価表は担当職員が記入、介護計画作成者が確認。又、ご家族にもコメント・サインを頂き、より適した計画作成に努めている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は計画作成担当者が作成し、日頃のケアチェックや評価は担当職員が行っている。3か月に1回、利用者と家族、関係者でカンファレンスを行い課題や要望等を話し合っている。ケア内容は介護経過記録に記入し、月毎に5段階で評価し経過評価表を作成している。経過評価表は家族の記入欄を設け意見や要望を聞く工夫がある。一人ひとりに適した介護計画となっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ケアプランに沿った個別チェック表を作成実践し、本人の言葉やエピソードなど新たな気づきや工夫は介護記録に記載。申し送りや日常の業務の中で情報を共有している。又、それらを基に介護計画の見直しを行っている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 医療連携体制を活かし、月2回の往診の協力を得たり、利用者の状況に応じて受診や通院送迎など柔軟な対応も行っている。又、本人や家族の要望に応じて外泊や外出の支援を行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 南光坊、別宮大山祇神社へのお参りや、小学校のたんぼぼタイム、地方祭など体調に合わせて外出し、馴染みの方との交流を楽しみにしている。又、家族の協力を得、行き付けの美容院へ出掛けたり、ボランティアの訪問を設定し交流を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者個々のかかりつけ医を持ち、ご家族様が付き添 われたり、協力病院医師による月2回の往診もある。 緊急時や、ご家族の都合で協力が得られない場合は、 主に看護師が同行。家族同行時は介護要約記録を提供 し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
			(外部評価) 定期受診は事業所からの介護記録と個別ケアチェック 表を持って家族が同行し、受診後は家族から報告を受 け内服や注意事項を確認している。かかりつけ医から も診療情報提供書を送付してもらい連携を図ってい る。家族が同行できない時は職員が対応したり協力病 院の往診を受ける等、安心して医療を受けられるよう 支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホーム内に看護職員を配置し、常に利用者の健康管理 を行い、状況変化に応じた支援が行えるようにしてい る。又、看護師不在時には、法人内他部署の常駐看護 師との連携も密にとれる体制が確保されている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には介護サマリーを提供し、医師・看護師との 情報交換を行い、回復状況を見ながら連携を図ってい る。又、ご家族とも情報交換し速やかな退院支援に結 びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りについては、契約時に指針に沿って事業所が対 応し得る最大のケアについて説明し、理解同意を得て いる。又、身体状況の変化については家族会、カン ファレンス時以外にも随時話し合いを持っている。	
			(外部評価) 看取りに関する指針を作成し、入居時の説明で事業所 でできること、できないことを明確にし、理解を得て いる。入院時や身体状況の変化に応じて話し合いを持 ち、利用者や家族の安心と納得が得られるよう努めて いる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急対応については、救急法やAEDの使い方の講習を受け、初期対応がスムーズに行えるようミーティング時定期的に勉強会を行っている。夜間時の緊急対応についてもマニュアルを作成し、常にすぐ見られる所に置いてある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消火器の位置や避難経路を全職員が日々確認し、利用者の歩行レベル、移動手段が一目でわかるよう業務日誌に記載し共有している。又、今年度より、地域防災組織との連携強化を図るために、防災士である〇氏を招き非常災害訓練の実施を予定しており、運営推進会議時に防災をテーマに講演を要請し、快諾いただいている。 (外部評価) 年2回、昼夜間想定で防災訓練を実施して、消火器や散水栓の設置場所、避難経路、避難場所の確認を行っている。毎日の業務日誌に車いす、杖使用の人数を記録し一目で移動手段が把握できるようにしている。備蓄についても一週間分の食料を保管している。法人全体で防災マニュアルを作成し、職員全員で対応できる仕組みがある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人一人の生活歴や性格を知り、人格を尊重しながら、一番心地良い呼び名や声かけを心掛け、プライバシーにも配慮している。又、職員の言動口調など、利用者の自尊心を傷つけないよう注意し合い、意識向上を図っている。 (外部評価) 全職員が認知症を十分理解したうえで、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損なわない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 共に過ごしていく中で、利用者の表情を読み取り、外出場所の選択、購入物の選択決断、衣類の選択等、些細な事でも利用者自身が決定できるようゆったりと待ち希望が叶うよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の暮らしが一人ひとりその人らしいものとなるようその時々望みを大切にし、買い物や散歩など個々に合わせた支援を行っている。又、手伝い・軽作業は自主性も汲み取りながら感謝の意を伝え無理のないよう行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) できる限り本人の好みで整えられるようサポートし、乱れの手直しなどはその都度行っている。又、できることを大切にし、見守りながら馴染みの美容室や訪問美容師によるお洒落を楽しまれている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 何よりの楽しみである「食」に関して、彩り、香りなどの工夫をし、見て楽しみ食べて楽しめる様々な取り組みを試みている。又、ホームの畑で採れた野菜も利用し、調理、盛り付けや片付けなど、積極的にして頂ける支援を行う。	
			(外部評価) 法人の栄養士が献立を立て、配給された食材を各ユニットで調理している。畑で採れた季節の野菜や利用者の希望を取り入れてメニューに反映させている。月2回は利用者が希望する自由食としている。メニューは掲示せず匂いで献立を当てたり、下準備を手伝うなど、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士の作成した献立表を元に利用者と相談しながらその日のメニューを決定し、咀嚼や嚥下にあった調理方法を行い、バランスの良い食事を提供している。又、飲水摂取量・排泄は個別にチェックし、体重増加防止や水分不足が起こらないよう健康管理に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとりの状態に合った口腔ケアを実施し、歯科受診者は医師よりアドバイスを受け実施。口腔ケアセットの消毒日は週1回、日曜日に定め、清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンやその兆候に合わせて声かけ誘導を行い、日中は可能な限りトイレでの排泄ができるよう支援している。時間や量に合わせた排泄用品の使い分けを行い、排泄後は洗浄清拭により常に気持ちの良い下着で過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。ウォシュレットや温タオルで毎回ケアを行い尿臭のないよう配慮している。夜間は安眠や清潔保持のためポータブルトイレやオムツを使用する等、利用者の状況に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 乳製品や繊維質の多い食材を取り入れ、適度な運動や腹部マッサージを働きかけ、自然排便ができるよう取り組んでいる。又、食事摂取量・排尿・排便チェックを行い、必要であればドクターに報告し個々に合った処方がなされている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望やこれまでの生活習慣に合わせた自由な入浴を心掛け、夜間入浴を取り入れている。浴室内は明るく飾りつけ、楽しくくつろげる場所になるよう工夫している。	
			(外部評価) 週3回の入浴を基本に、利用者の希望に合わせて支援している。入浴後は足指間にドライヤーを当て白癬菌予防等、清潔保持に努めている。入浴の苦手な利用者には相性の良い職員が声かけしたり、入浴したい気持ちになるような声かけで工夫し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動量の調節をしながら休息も取り入れ、1日の生活リズム作りをしている。又、畳の空間を作った事により休息時には自ら横になったり、夕食後は飲み物を飲みながらテレビ観賞雑談などでゆったり過ごせ、安眠に繋げる工夫を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 用法や用量が誰でもわかるよう薬ノートを作成し、薬は個別ケースに収納管理をしている。又、服薬時は個別対応にてそれぞれに合った服薬を行い、きちんと服用できるよう確認をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの経験や習慣であったこと、有する力をふまえた役割や楽しみごと等を作り出し、それが楽しみや歓びとなるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日々の利用者の状態や希望、季節などその時々状況に応じて、一人ひとりが外出を楽しめる支援に取り組んでいる。特に住み慣れた場所に行ったり、記憶にある方との面会など、今望んでいることの実現を目指している。入所間もなく不安のある利用者のご家族の協力で同行にて外出を楽しまれている。	
			(外部評価) 利用者の体調や希望に合わせて、近くの神社や寺に散歩するなど日常的な外出支援を行ない、外出時の様子や会話から希望の把握に努めている。希望する外食や昔住んでいた家を見に行くなど個別の外出支援も行なっている。年間行事を計画しドライブなどにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣いはホームの金庫で保管し、外出時には一人ひとりの力に合わせた支援を行い、買い物を楽しんで頂いている。又、小遣い帳で管理し、ご家族来苑時に確認して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 日常的に誰でも希望時には電話をかけられるようにしている。書くことを希望されない利用者が多い中、自分の言葉で手紙や葉書を書き送ることを望まれる方がおられ、希望に応じ投函介助等行うこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 玄関やフロアの椅子、ソファには利用者手作りの座布団を置き、季節の花や壁画で季節感を取り入れている。共有空間では、居心地良く安心感のある場所になるようゆったりとした音楽を流したり、好きな番組を観たりと何気ない日常生活を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 共用空間には、季節を感じられる物や手作り作品、生花などを飾り明るく賑やかな雰囲気となっている。廊下には椅子とソファを置いて、利用者がゆっくり落ち着ける馴染みの場所となっている。フロアに畳を敷き、話をしたり横になったり洗濯物をたたんだり、利用者が思い思いに寛げる場となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 少人数で利用者同士がくつろげる場所や一人でゆったり過ごせる場所を確保している。フロアには畳の空間を作り、寝転がったり、数人で協力し合い作業をしたりと思い思い好きなことができるよう支援を行っている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 今までの生活の中での使い慣れた用品に囲まれ、心地良く暮らして頂けるよう支援している。又、写真や仏壇を持ち込み、毎朝御飯お茶をお供えし、自宅と変わらぬ生活を継続している。</p> <p>(外部評価) 居室には、エアコンや洗面台、クローゼット、押入れタンス、ベッドが備え付けとなっている。写真や仏壇等、利用者がお気に入りの馴染みの物を自由に持ち込んでいる。利用者の動線に配慮し、高さのある物は低く配置するなど、一人ひとりが居心地良く過ごせるようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 自分の「わかること」の力を活かし動けるような設えをし、トイレ、居室等には認識できる工夫と身体レベルに合った高さに目印をつけている。又、利用者の自立を意識した家具配置をし、安全な動線確保を行い安全な環境づくりを行っている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870200650
法人名	社会福祉法人 杉の子会
事業所名	グループホーム廣寿苑
所在地	愛媛県今治市南大門町3丁目5-33
自己評価作成日	平成24年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年 8 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>個々の心身状態などの観察を行い、今何が出来るかの把握に努め、張り合いや楽しみ、喜びのある日々が送れるよう支援しています。又、本人・家族・担当者などの参加の下、3ヶ月に1度のカンファレンスを実施し、現状に即した介護計画の作成実践できるよう努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「笑い声が聞こえ美味しい食事の匂いがする。毎日笑顔で生活できる。」という事を活動方針に掲げ、日々支援に努めている。利用者一人ひとりに向き合うよう心がけて、ちょっとした仕草や態度、ことばを見逃さないように、個別ケアに積極的に取り組んでいる。3か月に1回、開催される家族会では一緒に調理をし、食事を共にして信頼関係を構築し、自由に意見交換できるよう支援している。同じ敷地内に有料老人ホーム、ケアハウス、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所を併設し、協力体制に安心感が持てる。利用者は、家庭的な雰囲気の中で安心して穏やかに暮らすよう支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 社会福祉法人杉の子会 グループホーム廣寿苑

(ユニット名) うめ

記入者(管理者)

氏名 妹尾 美地子

評価完了日 平成24年 7月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「誰もが気軽に立ち寄り、喜怒哀楽を共にし、当たり前暮らしが送れるよう支援して参ります。」という理念をいつでも見れることが出来るようにフロアに掲示。そして、職員同士のコミュニケーションを大切に、毎日笑顔で生活できるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 職員全員で話し合い、新たに基本理念を作成した。理念を基にユニット毎に活動方針を作成し、月1回の職員会で確認している。フロアにも掲示して日々ケアの実践に活かしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 買い物は近所のスーパーや衣料品店を利用し、散歩は、お寺や神社に出掛けている。又、小学校や公民館の行事にも参加させて頂き、地域交流に努めている。</p> <p>(外部評価) 町内会長や民生委員、老人会、婦人会等から情報ももらい地域の行事に参加している。月1回小学校の行事「たんぼぼタイム」に参加し、お正月には近所にお餅を配る他、事業所の行事案内やポスターを公民館に掲示したり、買い物や散歩等で気軽に声をかけ合う等、地域との交流を図っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 推進会では、認知症ケアの勉強会やホームでの体験談を報告し、理解を持って頂けるよう努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 評価結果を踏まえ、行事や利用者の状況を報告し、ご 家族、地域住民、行政などとの意見交換の場とし、よ りよいサービス向上に努力している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、第2水曜日に開催して いる。利用者や家族、公民館長、地域住民代表、民生 委員、市職員の参加を得て状況報告や活動報告を行 い、議題について積極的に意見交換を行っている。出 された意見はサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 推進会議では、中央包括センター職員の参加を頂き、 報告・連絡・相談も行政に出向き、協力関係を築いて いる。</p> <p>(外部評価) 高齢福祉課と地域包括支援センターの職員に交替で、 毎回、運営推進会議に参加してもらい、事業所の状況 を理解してもらっている。管理者は積極的に出向いて 相談しアドバイスをもらう等、良好な関係を構築して いる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 全職員が基本的な介護の姿勢を身につけるよう意識付 けし、拘束しないケアを目指している。具体的には、 玄関は開錠し、介護用具（車椅子等）や家具、衣服に よる拘束を行わない介護に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 月1回の職員会で、身体拘束をしないケアについて話 し合うなど、理解を深め共有認識に取り組んでいる。 玄関の施錠はせずセンサーを設置し、目配りと見守り をしながら自由な暮らしを支援している。帰宅願望の ある利用者は30分毎に確認し、さり気なく声をかけ て一緒に付いて行くなど見落とさないよう見守ってい る。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は、絶対にあってはならない人権侵害であることを各々が把握し、勉強会等も実施。又、言葉の虐待も見過ごすことのないよう、職員間で注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会やミーティングを実施することにより、権利擁護に関する内容の把握、活用できるように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者ごと家族、事業所でしっかりと説明を行い、不安や疑問点、要望などを話し合っ、理解と同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々、家族から率直な意見を頂けるような関係づくりを心掛け、それらを前向きに受けとめ、質の向上に努めている。又、玄関には意見箱や苦情箱を設置し、気軽に投函できるようにしている。	
			(外部評価) 家族会や運営推進会議、面会時、受診時等で直接話を聞く機会を多く持つように努めている。3か月に1回の家族会では利用者と家族、職員と一緒に調理し食事を共にして、何でも話しやすい関係を築いている。毎月の介護経過評価表に家族の記入欄を設け、意見や要望を聞いて、出された意見等は運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 普段の業務の中や合同ミーティングで、利用者へ満足していただけるにはどうすべきかというテーマのもと、より良い意見交換ができるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員間のコミュニケーションや管理者との信頼関係を構築するため、食事会や飲み会などを催して、積極的に意見を出せる環境づくりに取り組んでいる。申し送り時やミーティングで職員から出された意見や提案は、管理者とユニット主任が集約し、法人内の各委員会に提案している。能率給を取り入れて向上心を持って働けるようにするなど、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 「は・た・ら・き・やすく」をモットーに（はやく・たのしく・らくに・きれいに・安く）できないかを常に考え、より良い職場環境をつくるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会等にはできるだけ多くの職員が受講できるような環境をつくり、研修後には報告・勉強会を実施している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会には積極的に参加するようにし、他施設の方との意見交換や情報交換を行っている。又、年1回相互研修に1名以上参加している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 普段の会話の中から、どんな小さな不安や思いも聞きもらすことなく、本人の意思を反映し、安心して暮らして頂けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 話し合う機会を設け、ご家族の方が何を求めているのか、ということをしっかり理解し、サービスの向上に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時の本人、家族の実情や要望をもとに、何が今一番大切かを見極め、対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 喜怒哀楽を分かち合い、日常生活を利用者さんと共に行うことで自分自身も成長し、互いの関係性を築く努力をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の要望をお聞きした上で、その要望が実現できるよう努力し、ご家族の負担とならぬよう、行事参加や面会を促している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人が大切にしてきた関係が途切れないよう、積極的に出かけ、馴染みの関係が継続できる支援に努めている。	
			(外部評価) 入居前に、利用者や家族から日々の生活の中で気付いたことなどを聞き取り記録して、一人ひとりの馴染みの関係を把握している。知人や行きつけの店、美容室等、これまで大切にしてきた関係が途切れないように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションや行事等を通じて、利用者同士が関わり合う環境を作っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も電話連絡をしたり、それまでに築いた関係を大切に、相談にのるなど支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) カンファレンス時や何気なく話した会話であっても、希望や要望を確認し、常にそれらを把握できるよう努めている。	
			(外部評価) 日頃から、利用者にできるだけ多くの声かけを行い、思いや意向を把握するよう努めている。意思疎通が困難な利用者については、日々のかかわりの中で信頼関係を築いて、表情や動作などから察知したり、家族からの情報などにより真意を確認している。それらを基に利用者本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方・生活環境シートを活用し、ケアプランを作成し、毎月評価を行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 排便・睡眠・バイタルをはじめ、普段と違うところがないか観察を行い、少しの異常も見過ごさないようにしている。そして、日々の申し送りにより全職員が状況把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 全職員が利用者の個別担当を持ち、月1回行っている評価と3ヶ月に1回実施しているカンファレンスにより、本人・家族の意見や希望をお聞きし、反映している。	
			(外部評価) 介護計画は計画作成担当者が作成し、日頃のケアチェックや評価は担当職員が行っている。3か月に1回、利用者と家族、関係者でカンファレンスを行い課題や要望等を話し合っている。ケア内容は介護経過記録に記入し、月毎に5段階で評価し経過評価表を作成している。経過評価表は家族の記入欄を設け意見や要望を聞く工夫がある。一人ひとりに適した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 介護記録には、ケアプラン以外にも何気なく発した言語や日常の様子を記入し、職員間で情報共有を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況をしっかりと把握し、急病による病院受診や通院など、柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 買い物は近所のスーパーや衣料品店を利用。小学校の行事にも参加し、地域の方との交流により楽しく生活している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 以前から利用しているかかりつけ医での医療が受け れる環境づくりに励み、かかりつけ医とは密に連携を 図っている。	
			(外部評価) 定期受診は事業所からの介護記録と個別ケアチェック 表を持って家族が同行し、受診後は家族から報告を受 け内服や注意事項を確認している。かかりつけ医から も診療情報提供書を送付してもらい連携を図ってい る。家族が同行できない時は職員が対応したり協力病 院の往診を受ける等、安心して医療を受けられるよう 支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 毎朝のバイタル測定や、日々の表情の変化の発見に努 め、看護師への報告・指示を仰いでいる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には介護サマリーを病院に提供している。又、 お見舞いにも出向き、医療現場とも情報交換を行っ ている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 面会時や家族会などの話し合いの中や、普段の会話の 中から希望を聞き、ご家族やご本人にとって一番良い 形をとれるよう努力している。	
			(外部評価) 看取りに関する指針を作成し、入居時の説明で事業所 でできること、できないことを明確にし、理解を得て いる。入院時や身体状況の変化に応じて話し合いを持 ち、利用者や家族の安心と納得が得られるよう努めて いる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、ご家族と協力し通院介助を行っている。又、事故・ヒヤリハット報告書を作成し、今後の対処方法を共有している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消火器の位置や避難経路を全職員が日々確認し、利用者の歩行レベル、移動手段が一目でわかるよう業務日誌に記載し共有している。又、今年度より、地域防災組織との連携強化を図るために、防災士である〇氏を招き非常災害訓練の実施を予定しており、運営推進会議時に防災をテーマに講演を要請し、快諾いただいている。	
			(外部評価) 年2回、昼夜間想定で防災訓練を実施して、消火器や散水栓の設置場所、避難経路、避難場所の確認を行っている。毎日の業務日誌に車いす、杖使用の人数を記録し一目で移動手段が把握できるようにしている。備蓄についても一週間分の食料を保管している。法人全体で防災マニュアルを作成し、職員全員で対応できる仕組みがある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入院時には、介護サマリーを医療機関に提供し、見舞うなど担当医師、看護師と話し合う機会をもち、情報交換を行っている。	
			(外部評価) 全職員が認知症を十分理解したうえで、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 衣服や飲み物の選択には、極力本人の意思決定を尊重し、ゆっくり無理なく関わられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活ペースを崩すことがないように、本人の希望に沿えられるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日自分で選んだ服を着たり、外出時には化粧をするなど、楽しみながらおしゃれができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個人の能力を把握し、食事の下準備や片付け等を協力して行って頂いている。又、外出したり、月2回の自由食の日には、食べたい希望のメニューを取り入れている。	
			(外部評価) 法人の栄養士が献立を立て、配給された食材を各ユニットで調理している。畑で採れた季節の野菜や利用者の希望を取り入れてメニューに反映させている。月2回は利用者が希望する自由食としている。メニューは掲示せず匂いで献立を当てたり、下準備を手伝うなど、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事チェック表、水分量チェック表により、一人ひとりの状態を把握。過不足分のないよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きを実施。又、歯科受診者はその都度歯科医からアドバイスを受け対応し、歯ブラシ等の消毒も実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 管理者指導の下、排泄について学習し、その人に合った排泄用品の検討をするなど、不快のないよう支援している。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。ウォシュレットや温タオルで毎回ケアを行い尿臭のないよう配慮している。夜間は安眠や清潔保持のためポータブルトイレやオムツを使用する等、利用者の状況に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々のノートを活用し、できる限り服薬には頼らず、水分補給やマッサージの推進等に対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) いつでも入浴できるような環境を用意し、健康状態を確認後個々の希望を聞きながら、週2回以上は入浴できている。拒否される方においては、職員変更や清拭・足浴などで清潔保持に心掛けている。	
			(外部評価) 週3回の入浴を基本に、利用者の希望に合わせて支援している。入浴後は足指間にドライヤーを当て白癬菌予防等、清潔保持に努めている。入浴の苦手な利用者には相性の良い職員が声かけしたり、入浴したい気持ちになるような声かけで工夫し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は炊事や洗濯干し、たたむことなど無理のない範囲での作業提供を行い、夜間の安眠に繋げている。又、眠れない時にはフロアで一緒に過ごし、温かい飲み物を提供するなど就寝を促している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々に作成している服薬ノートを活用し、全職員が把握できている状態をつくっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの好きなことや得意なことを生かしながら、レクリエーションや軽作業を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 馴染みの場所や好きな物を知り、少人数で外出や外食などを計画。希望に沿えるよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の体調や希望に合わせて、近くの神社や寺に散歩するなど日常的な外出支援を行ない、外出時の様子や会話から希望の把握に努めている。希望する外食や昔住んでいた家を見に行くなど個別の外出支援も行なっている。年間行事を計画しドライブなどにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個々の希望を聞き、職員同行にて買い物を楽しませている。お小遣いはホームの金庫で預かり、ご家族に確認して頂いている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望や、家族の状況を把握しながら電話でのやり取りを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 空気の入れ換えを行うなど、外気温を感じて頂いている。又、壁面には季節感が出せるような飾りつけをしたり、日めくりカレンダーなどを配置している。	
			(外部評価) 共用空間には、季節を感じられる物や手作り作品、生花などを飾り明るく賑やかな雰囲気となっている。廊下には椅子とソファを置いて、利用者がゆっくり落ち着ける馴染みの場所となっている。フロアに畳を敷き、話をしたり横になったり洗濯物をたたんだり、利用者が思い思いに寛げる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 仲の良い数名でテーブルを囲むことができる環境をつくりつつも、一人ひとりがゆっくり過ごせるスペースも確保している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 昔から使われていた馴染みの物を持ち込むなど、家庭と同じように居心地良く過ごせるようにしている。	
			(外部評価) 居室には、エアコンや洗面台、クローゼット、押入れタンス、ベッドが備え付けとなっている。写真や仏壇等、利用者がお気に入りの馴染みの物を自由に持ち込んでいる。利用者の動線に配慮し、高さのある物は低く配置するなど、一人ひとりが居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室の扉やトイレの入口などには、わかりやすいように目印をつけるなどし、本人の「わかること」や「できること」を奪わぬよう支援している。	